

第84回地元学を考える

『聖書物語とクリスマス』

講師 小林 喜成氏

昨年12月、第84回地元学が開催された。地元学では毎年12月は小林先生にお出でいただき、キリスト教の逸話を披露していただくことになっていく。

毎回お話を聞いて驚かされるのは、数千年前に書かれた聖書の中のエピソードの殆どが普遍的で、現在の私たちの生活にも大きく通じるものがあるということだ。それはつまり、人間というものの本質

1面より

しだい随時連絡していきたく思います。地元学は今年も続きま

す。期待していただきたく思います。今年も元気に、楽しく「頑張っていきたいと思います」

シャローム

は古代から変わっていないということでもある。これはとても興味深いことだ。

聖書は千を超える語に訳され、毎年世界中でベストセラーを重ねている驚異的な書物でもあり、文化、芸術、福祉など、様々な分野に与えた影響は計り知れない。

今回先生には旧約聖書の創世記から新約聖書のキリスト誕生まで、聖書の代表的なエピソードを紹介していただき、そこからみえてくる人間の性質というものを論じていただいた。たとえば、創世記で禁断の果実を食べてしまふアダムとイブのエピソードからは、人として避けて通れない悪原罪というメッセージが読み取れる。

仏教などでは出発点として苦悩、苦しみがあるが、キリスト教ではこの罪が出発点となる。罪を背負って十字架に掛けられ、人類を救済する、というキリストの生き方（自己犠牲 "Sacrifice"）にあるように、キリストの教義とは、人間の抱える罪を理解し、そこから救済されることにある。

ノアの方舟・大洪水、バベルの塔崩壊では、いずれも栄華を極めたものの滅びが描かれる。墮落した人間たちが神によって全て滅ぼされ、積み上げてきたものが全てが破算にされてしまふというものだ。こうした崩壊への道筋は歴史的にもあらゆる大帝国内に当てはまることであり、他でもないユダヤ民族自身の歴史でもある。

の傲慢さこそが文明を滅ぼすきっかけとなることをこれらのエピソードでは警告している。また、ノアの方舟で助かった一族はかたくなに悪を拒絶したことにより生き延びたことが

らも、「人は謙虚でなければならぬ」という強いメッセージが伺える。お話を聞いてから、改めて日々世界中で見られる事件や社会の動き、テレビドラマや古典文学などの様々

な文芸作品に対して聖書の存在を重ねて見ると、そこからまた聖書の「大きさ」が見えてくるという、とても貴重な経験となった。

(赤間 亮太)

第85回地元学を考える

『古事記 国生み神話の世界』

講師 中川宣昭氏

平成23年1月22日の土曜日に行われた第85回地元学では、遙々遠方の兵庫県から講師の中川宣昭さんをお呼びして、「古事記 国生み神話の世界」と題した講演をしていただきました。講師は現在、



兵庫県南あわじ市沼島にある神宮寺というお寺の住職をつとめていらっしゃいます。同時に離島「沼島」に少しの光をと考え、ポランティアガイド「ぬぼこの会」の代表としても活動していらっしゃいます。講演では、古事記の内容についてから宇宙の話、仏教の曼荼羅についてなど様々なお話をしていただきました。講師は古事記について1300年前の人達がどこから来たのかについて考えた物語であると語りま



した。当時の人達は古事記を宇宙をの覗くように考えていたかもしれないことでした。

古事記については名前には聞いたことがあっても、内容については全く知識がありませんでした。しかし約1300年前に作られたお話だというのに現代に通じる場面もあり興味深かったです。

(玉川 秀則)



「市民活動フェスティバル」を終えて

22年12月18・19日、ふくしま市民活動フェスティバル2010が開催された。県北のNPOの年に一度のお祭りとして当行事もすっかり定着した感があるが、今回は旧さくらのデパート跡に新規オープンしたダイユーエイトマックス4階のオーゼに会場を移し、こおやフェスティバルと同時間催で二日間にわたり、盛大に行われた。2日間で6千人を超える来場者があり、環境、子育て、授産等グループ分けされた60を



越える団体のブーイングは市民のみならずには見やすく好評だった模様。また、参加団体にとつては同じ問題に取り組んでいる他団体との連携を持つきっかけにならり有意義な時間を持てたようだ。今後の個々の活動にプラスになると思われる。回を重ねるごとにイベントの運営に慣れ、自分の判断で動けるスタッフも多くなってきたようだ。我々のミツシヨンのひとつでもある、中間支援の具体的な行動が結果として実を結びつつある。次回もさらに飛躍できるよう裏方をがんばりたいと思う。(佐々木 宗隆)

「時間寄付とNPO法人支援税制のあり方」

22年12月21日、「NPO研究会」のつぼアカデミーが開催された。今回は講師を当シャローム副代表である大竹隆氏が務め、NPO法人の社会的役割と支援税制のあるべき姿を流山訴訟という裁判の事例をもとに整理検討し、「市民公益税制」のあるべき姿と「新しい公共」をNPO法人の立場から考えるというものである。流山訴訟で争点となつた有償ボランティアが法人税の収益事業に該当するか否かという点であり、NPO法人がなぜ収益事業として課税されるのか？

有償ボランティアは「時間寄付」という考えにできないだろうか？ これらの提起された問題を社会全体で考えていく。そしてそれを法的に確立してい



くことが、今後のNPO法人の社会的役割を拡大し、ボランティア活動の発展にもつながることになっていく。今、少しずつその働きを広げていこうという異なる分野に働きかけているところである。現状、財政基盤の弱いNPO法人の存続もあやうくなるような司法の判断には、首をかしげたくなる。非営利とはお金をもらわないで(無償)で活動するということではありません。組織を運営していくためには、経費を必要とします。メンバーからの会費収入や寄付金だけでは事業を遂行するには十分

第86回「地元学を考える」のご案内

「古民家演奏会場の楽しみ」

講師 野内 彦太郎氏 (農業・彦ハウス主催)

23年2月19日(土) 午後1時半より3時

まちなか夢工房 2階 オアシス広場

参加費 500円 (飲み物付き)

講師プロフィール

昭和7年4月生まれ。大玉村在住。高校卒業後は長男として農業に従事し、稲作や酪農に取り組む。41歳の時、友人の会社設立に伴い、請われて高速道路サービスエリアを運営する会社へ。67歳まで在籍。平成8年、音楽好きの青年がスタンウェイと共に古い母屋に住み、これが契機となり、仲間と共にコンサートに関わることになる。年間2~3ペースでジャズやクラシック、世界の民族音楽のジャンルを紹介。

ではないことが考えられます。NPOも事業により収入を得て安定して社会に存続していくことが求められており、有償ボランティアとして行っている事業までが収益事業に該当すると

いう考えでは、今後のNPO法人の発展が阻害されてしまいます。時間寄付概念の制度化に向けて、私達が地道に地域社会に働きかけることが大切であることがわかりました。(高野 泉)

活動報告 12月1日～1月31日

- 12月4日 「空の庭」食事会招待（福島愛育園）
70名
- 12月6日 福島県広報課テレビ取材
- 12月10日 市民活動フェスティバル実行委員会
・ボランティア打合せ
- 12月14日 福祉研究会（9名）
- 12月15日 門前市（2名）
- 12月18日 第84回地元学
「聖書物語とクリスマス」（35名）
- 12月18・19日 市民活動フェスティバル
アオ・ゼ（旧さくら野）（65団体）
- 12月21日 生協スペース・ラブリ棚卸（2名）
- 1月11日 福祉研究会（8名）
- 1月12日 ふくさば委託説明会（2名）
- 1月15日 門前市（2名）

- 1月21日 生協棚卸 JA6次化推進フォーラム
- 1月22日 第85回地元学
「古事記国生み神話の世界」
-人はどこからきてどこへ（61名）
- 1月22日 第1回映像研修フォーラム
「マザー・テレサと生きる」（28名）

活動予定 2月1日～2月28日

- 2月5日 居場所づくりワークショップ
- 2月8日 福祉研究会
- 2月9日 春のお菓子づくり教室
- 2月15日 門前市
- 2月19日 第86回地元学
「古民家演奏会場の楽しみ」野内彦太郎さん
- 2月19日 第2回映像研修フォーラム
- 2月21日 生協棚卸
- 2月28日 夢工房棚卸

～シャロームスタッフ、今年の抱負を語る！**まちなか夢工房店長 斉藤 巧**

今年のまちなか夢工房は昨年のスペースラブリリニューアルにつづき、パン及び焼き菓子のリニューアル、オーガニック食材の取扱いなど予定しています。材料、成形と大幅に見直し、味、見た目、体に美味しいパン作りに全力で取り組みます。又、県産米粉を使用したパンの充実と、各種ギフトにも対応した焼き菓子商品の充実と随時、皆様へ情報の配信を予定しております。今後のまちなか夢工房情報はぜひシャロームモバイルサイト「シャロモバ」にてメール会員登録をいただければ配信させていただきます。まちなかへお越しの際は夢工房へお立ち寄りください、スタッフ一同心よりお待ちしております。

楽膳 代表 大竹 愛希

今年度は楽膳の新商品として、会津塗職人による塗箸と施設（なのはなの家さん）が縫製を手がける箸袋のセットを販売予定です。施設製品が一般の市場に流通しうるだけの品質を持つことをより多くの人たちに知ってもらうきっかけになれば、と願っての試みです。本年もUDセンターと連携しながらが主な活動となります。デザインの分野から、障がいを持つ仲間が社会の中で活動していくためのお手伝いをしていければ、と思っております。

映画班担当 佐藤 憲吉

シャローム映画班の今年の抱負としましては、また新たな試みにチャレンジしていきたいと思っております。現代は情報化社会になり多様な価値観や世代間の格差など地域社会においても様々な

新しい問題や生活環境の変化があります。現代の地域社会でも、そういった多様化した社会に適應できるコミュニケーション能力を身につけることが求められています。今まで映画づくりを体験できました。そうして出来上がった作品を通して、社会に馴染めるコミュニケーション能力が養われたと思います。そういった映画制作ワークショップの発展形として福島で市民による映画作りを推進して行きたいと考えております。また同時にシネリテラシーのワークショップ指導者育成の講座開催を目指しております。映像研究フォーラムなど、シャローム独自の「シネリテラシー」の推進と、シネリテラシーによる地域活性化と、新たなセーフティネットの役割を持つようなコミュニティの一翼を担う活動をして参りたいと思っております。今年もよろしくお願いたします。

UDセンター チーフ 佐々木マユミ

シャロームUDセンターは、ユニバーサル製品の開発や開発支援。また、ユニバーサルな地域づくりとして、施設と地域を紡ぐ活動を行っています。昨年は、大波上組営農倶楽部のみなさんとひまわり栽培に関わらせていただきました。もちろんワークさんやたくさんボランティアさんとともに、ひまわりの播種から草取り、収穫まで、経験しました。2011年はさらに田畑や休憩所をお借りし、モチ米の栽培や野菜の栽培等をおこなっていきます。どっぷりと農業につかる気持ちで取り組んで行きたいと思っております。シャロームのみなさん、まちなか夢工房のみなさんにも色々なサポートをお願いすると思っておりますが、よろしくお願いたします。

**編集
後記**

雪が少なくなったと言っていたのが嘘のように雪が降り積もる。私がまだ青森に住んでいた十数年前は青森市の一冬の除雪費用は20億くらいと聞き驚いた記憶がある。当時は毎朝自分の車を駐車場から掘り出して通勤。家に帰ってきたら、駐車するために除雪、冬場はその繰り返し当たり前だった。巨大な除雪車が市内のあちらこちらにあり、早朝のシャンシャンゴという除雪の音で目が覚めたものだった。それが暖冬のせいですっかり業者の数も減り、路側帯ぎりぎりまで綺麗に掻き揚げる高等なテクを持った人の数も減っているようだ。有事に備え、技術の伝播も大事なのではないか。（M.S）